

# 出会いと別れ 高山右近に学ぶこと

NHKラジオ  
明日へのことば  
2013年3月26日



高橋敏夫 表千家茶道教授、牧師

戦国の武将でキリシタン大名として知られる高山右近。茶人としても千利休の高弟としてその道を極めた右近の生涯をたどり、なぜ彼が地位も名誉も、自国までも捨てて信仰の道を守り通すことができたのかを、著者独特の視点で、改めて考察した「武将高山右近の信仰と茶の湯」の著者。

牧師であり、茶道の表千家教授である高橋敏夫氏がユニークな視点で日本文化と聖書の関係を掘り下げている。



高山右近は、今から450年前、1552年、摂津の国、現在の大阪府豊能郡高山で生まれ、1615年、フィリピンのマニラで、63歳で天に召されていきました。時代でいいますと、室町時代から、安土桃山時代、そして、江戸時代のはじめの頃まで。いわゆる戦国時代を生きぬいてきた人です。

12歳の時に父の影響で洗礼を受けた高山右近はキリシタン大名・茶人として知られている。動乱の時代に生き、信長・秀吉・前田利家につかえ、関ヶ原の戦いにも参加している。最後は神を選び日本を追放され、マニラの地で63歳の生涯を閉じた。

戦国の武将でキリシタン大名として知られる高山右近。茶人としても千利休の七人の直弟子「利休七哲」の一人であり、「利休極上の弟子也」と云われた右近がなぜ地位も名誉も、自国までも捨てて信仰の道を守り通すことができたのか？

千利休が確立した「わびぢゃ」には、驚くほど聖書の精神と通じるところが多いという。もてなしの心、仕える心、すべてを捨てる心…。そして利休とキリスト教の接点を調べていくと、興味深い歴史的事実が見えてくる。

茶道は、茶の湯とも言われており、亭主と客人が集まって行う茶会を中心にした、日本独特の生活文化であり、単に茶を入れて飲むのではなく、精神性を重視した、総合芸術とも言えるでしょう。茶の湯をもって武将を治めていたのが信長。秀吉もこの線を引き継ぐ。

また、茶道には、作法や約束事が細かく決められており、とかく堅苦しく見られがちですが、実際は、五感を十分に働かせて客をもてなす、風情ある日本文化です。そして、一見、キリスト教とは無縁のように思われますが、実は、その中には広く聖書の教えと通ずるものがあるのを皆様はご存知でしょうか？ 実は茶道を確立した千利休は、キリスト教の影響を強く受けたと考えられているのです。キリシタン大名は茶の湯に親しみ、茶の湯のもてなしあいをしていました。殺伐とした戦国の世で相手を敬っていた。茶の湯の心は、捨てること。

絶対に裏切らない男として信長や秀吉から絶大な信頼を得たキリシタン大名・高山右近。

元々、少年時代に洗礼を受けた当初はそれほど熱心な信者ではなかった。しかし21歳の時、転機が訪れる。兄弟のような間柄であり主君でもあった和田惟長と斬り合いになり、自らの手で殺してしまったのだ。親友を殺したことを後悔し自分を責めた右近は、幼いころ聞き流した「汝の敵を愛せよ」と諭すキリストの教えに改めて耳を傾け、絶対に裏切らない生き方を誓う。

高槻城の城主となった右近は、戦国の世に抗うように愛とぬくもりに満ちた国造りを目指す。生きる力はキリストの心。民と共に苦しんだ。ところが、仕えていた荒木村重が織田信長に反旗を翻したため信長の軍勢に包囲されてしまう。しかも村重に息子を人質に取られる一方、信長からは降伏しなければ領民を殺すと脅され、進退窮乏してしまう。その時、右近が選んだのは並みの武将には真似できない大胆な決断だった。

本能寺の変の後、秀吉に従った右近は仲間の武将に教えを乞い、キリスト教は「高山の宗門」と呼ばれる。しかし宣教師に日本征服の意図を疑った秀吉が突然、宣教師追放令を発し右近に棄教を迫ってきた。

右近には千利休はじめ三回、使者が使われたが右近は神を選んだ。

織田信長に信任され、豊臣秀吉には信頼されつつも、「伴天連(バテレン)追放令」を発したときに、予をとるか、神をとるか迫られて、迷うことなく、「たとい人、全世界を手にしても、おのがアニマ(魂)を失わば、何の益かあらん」この聖書の言葉通りに、神・信仰を選び取り、また、徳川家康には「右近の部下の千人は、ほかの者の一万人よりもすぐれている」そのように言われて、その実力を評価されていたのが「高山右近」でした。忠実なクリスチャンでした。

右近は命令を拒んだため領地を没収されて放浪の旅へ。追い打ちをかけるように仲間の武将が次々教えを捨てる。行くあてがなく途方に暮れる右近を救ったのは、かつて右近を裏切り教えに背を向けた仲間たちだった。しかし安住の地を得た右近に、フィリピンへの国外追放令が出される。

右近は大名というより貧しい人々を助けた人としてマニラで大歓迎された。

富もうが貧しかろうが、日本人の心を大切にすれば、幸せになれる。

死は新しい出発の出会い！